

学内グラント 終了後報告書

平成20年度 学内グラント報告書

サブスタンス P による血小板凝固活性亢進の分子機構と 痛み治療の役割の検討

研究代表者 東 俊晴 (埼玉医科大学 医学部 麻酔学)

研究分担者 菊地 博達*, 成田 弥生*, 塚本 真規*

研究成果リスト (追加)

論文
著書

- 1) 東俊晴, 伊藤大真, 杉本由紀. 新たなる視点で捉えた「侵襲 (Stress) と麻酔」周術期病態制御の新機軸として注目される分子・pathway—: ニューロキニン受容体と血栓形成. *Anesthesia 21 Century* 2010;12:2317-24.

海外学会発表

- 2) Azma T, Ito T, Doi K, Shiraishi M, Matsumoto N, Kikuchi H. Effects of continuous or pulsed radiofrequency current on the cytotoxicity and the

* 埼玉医科大学 医学部 麻酔学

messenger-rna expression for proopiomelanocortin (pomc) and neurokinin-1 receptors in human monocytic thp-1 cells. 13th World Congress on Pain. Montréal, Québec, Canada, 2010/8/29-9/2.

国内学会発表

- 3) 東俊晴, 昇弥生, 塚本真規, 杉本由紀, 中尾正和, 菊地博達. サブスタンスPによる血小板凝固活性亢進と深部静脈血栓の脊椎周術期変化に対するレミフェンタニルの影響. 日本麻酔科学会第57回学術集会. 福岡. 2010年6月3日-5日.
- 4) 東俊晴, 伊藤大真, 土井克史, 松本延幸, 菊地博達. ヒト単球系細胞へのブピバカイン曝露が細胞障害と活性酸素産生能に及ぼす影響. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都. 2010年7月2日-3日.